りべら（Libella）はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

2019.2
151
号

りべら

大阪府立西淀川高等学校で最後の西淀川公害の授業（2018年12月18日）

りべら 2019.2 151号
発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

特集 SDGsはじめました

ＳＤＧｓってなーに？…1
あおぞら財団とＳＤＧｓ…3
SDGｓとパートナーシップ 佐藤真久…5
北海道で進めるSDGs―さっぽろ自由学校「遊」の取り組みから 小泉雅弘…6
権利ベースアプローチと公害 第6回公害資料館連携フォーラムin東京の議論から…7
自転車に乗ってSDGｓ！…9
ぶらりとゆるりと西淀川めぐり…10
みずしまだより…10
「にしよどがアートのまち」になった5日間…11
忙中一筆 山田龍太さん…12

あおぞらフォトギャラリー

まちづくり

釜石の栗林地区で継承されている鹿踊り。若手のみなさんが練習の成果を披露してくださいました（「関西×東北応援ツアー」2018/12/01）

資料館

西淀川アイデンティティ研究会の成果として「公害地域再生運動の源流 ―大阪・西淀川公害訴訟の訴状形成過程 」を環境社会学会で発表しました。（2018/12/9）

資料館

四日市公害と環境未来館の解説員研修を行いました。展示を見ながら見学者にどんな問いかけができるかを考え中（2018/12/22）

お知らせ

●第35回日本環境会議（JEC）40周年記念神戸大会

■大会テーマ：エネルギー政策の転換をもとめて
■日時：2019年3月2日（土）～3日（日）
■場所：神戸大学六甲台第1キャンパス第2学舎（法学研究科）
アクセス：JR六甲道駅/阪急六甲駅より36番バス停「六甲台」下車
■主催：日本環境会議、第35回日本環境会議神戸大会実行委員会
■参加費無料（資料代1000円）
■参加申し込み
・日本環境会議ホームページ（http://www.einap.org/jec/）または
https://ssl.form-mailer.jp/fms/7edca319600470
※事前申し込みがなくてもご参加可能ですが、当日、満席になった場合は事前申し込みいただいた方を優先いたします。
■問い合わせ：jec35.2019@gmail.com

あおぞら財団とは

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
（TEL）06-6475-8885（FAX）06-6478-5885
電子メール:webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判（1978～1998）では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

あおぞらビル

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」
会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前：1,000円／午後：1,300円／夜間：1,300円／全日：3,000円
【5F】西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）
西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。【環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設】
開館日 月曜日と金曜日（10:00～17:00）／要事前電話予約
●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

会員・寄附募集

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。
●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。
【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、
法人・団体：年一口10,000円
●会費・寄附の振込先
＊郵便振替口座 00960-9-124893 加入者名：あおぞら財団
＊三菱ＵＦＪ銀行 歌島橋支店 普通 3764689
口座名義：あおぞら財団賛助会員

特集

SDGs はじめました

2016年からスタートしているSDGsは国連で採択された「持続可能な開発目標」です。この目標は、先進国・途上国を問わず、行政・企業・市民それぞれの立場で目指すべき目標です。2030年までの達成を目指しています。

「誰一人取り残さない No one will be left behind」という理念が掲げられました。この「誰一人」とは、例えば公害患者さんのように、困難な立場におかれた「社会的弱者」のことです。

市民の立場からSDGsの達成のためにできることは何かを考えます。

あおぞら財団 SDGs解説4コマ漫画

エスディージィーズ（SDGs）ってなーに？

全世界共通の目標

最近、虹色の輪っかのマークを見かけませんか？その虹色のマークは「SDGs」のシンボルマークです。

SDGsは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。2030年に向けた17の目標と169のターゲットで、2015年に国連で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた目標です。実行する人や責任者が誰と定められているわけではなく、政府も地方自治体も企業も市民も責任を持って進めていくことが求められています。

この目標を作成するにあたって、国連ではオープンワーキンググループが開催され、国連に加盟する国、専門家、他の利害関係者と議論を重ねました。広く一般市民やNGOの意見も取り入れられたのです。

環境と貧困

1972年にストックホルム会議と呼ばれる国連人間環境会議が開催されました。環境問題についての世界で初めての大規模な政府間会合でした。この会議では日本で深刻化していた公害問題も紹介されています。人間環境宣言が採択され、国連環境計画（UNEP）が設立されるなど、環境問題を全世界的に取り組むことが国際的に議論されてきました。その後、地球温暖化に取り組む気候変動枠組条約や生物多様性条約、砂漠化対処条約、アジェンダ21などの枠組みを作り、持続可能な社会を目指す議論の場が生まれてきました。一方で、環境と並んで問題になっていたのは途上国の貧困の問題です。1966年に国連開発計画（UNDP）が発足し、ミレニアム開発目標（MDGs）として2000年から2015年までに達成すべき8つの課題を掲げて取り組んできました。

これまでは、環境や貧困はテーマ別に取り組まれてきましたが、これからは統合的に捉えて、途上国だけでなく全世界的に取り組む必要があるということで、新しい目標としてSDGsが掲げられました。

誰一人取り残さない

SDGsの革新的な部分は、前文に「誰一人取り残さない-No one will be left behind」という一文が入ったことです。マイノリティや社会的弱者が排除されず、多様性（ダイバーシティ）が尊重される包摂的な（インクルーシブ）社会を目指すことを掲げたのです。そして、困難な状況に置かれている人々は、「救済の対象」というだけでなく「自らの状況を改善していく権利主体」なのです。

SDGsは目指すべき社会の姿です。SDGsに示されている社会と現実社会を照らし合わせると、課題はたくさんあることが見えてきます。この目指すべき社会に変革するために、行政も企業も市民も、何をするべきかを考えて行動することが求められています。（林）

リオで開催された環境サミットに公害患者はNGOとして出席しています。「まだ公害は終わっていない」ということを主張しました。（1992）

特集

SDGsはじめました！

あおぞら財団とSDGs

公害地域再生＝持続可能な社会

1996年に設立された、あおぞら財団は「持続可能な社会」を実現するために存在するといっても過言ではないくらい、SDGsと密接な関係になります。

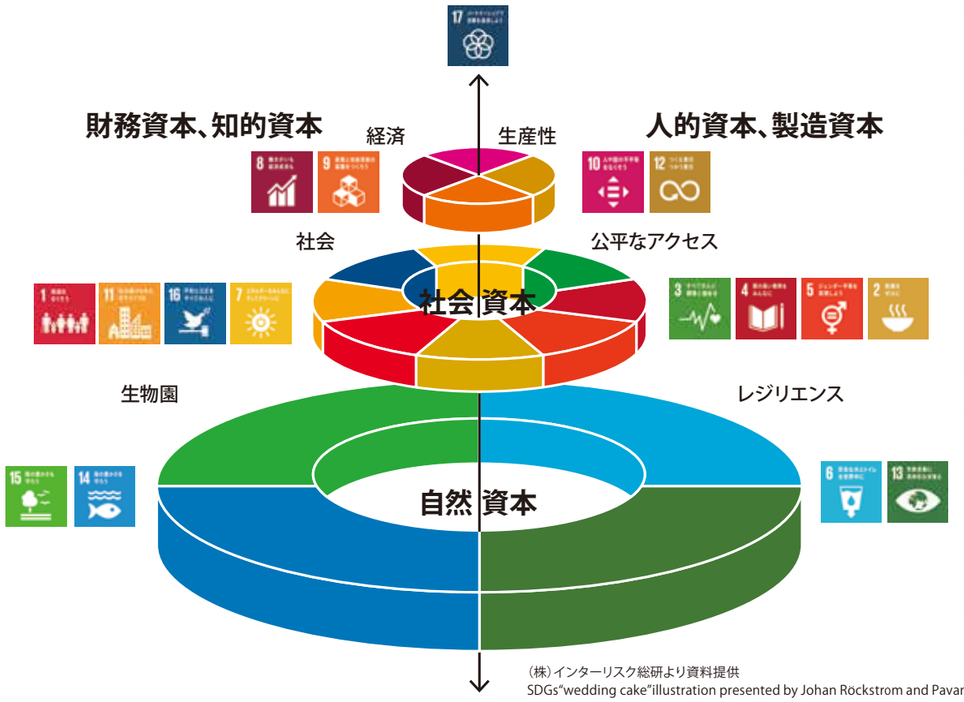
もともと、あおぞら財団は西淀川公害裁判の企業からの和解金を財源としてつくられた「公害地域再生」のための組織です。公害で疲弊した地域を再生するためには、政策提言も必要だし、まちづくりの実践も必要だし、教育も大切だし、公害の経験を伝えるための資料館も運営しなければならない、ということで活動は多岐にわたります。それらの活動をする上で、大切にしていることが設立趣意書に書かれている次のような姿勢です。

「公害地域の再生は、たんに自然環境面での再生・創造・保全にとどまらず、住民の健康の回復・増進、経済優先型の開発によって損なわれたコミュニティ機能の回復・育成、行政・企業・住民の信頼・協働関係（パートナーシップ）の再構築などによって実現される」

ESDウエディングケーキ

「自然」がきちんと守られてこそ、「私たちのくらしや社会」が成り立ちます。その上に「経済」活動が成り立つ。一番下の「自然」に関わる4つの目標が、その他の目標に関わる「社会と経済」を支えています。1～17の目標を達成するためには、パートナーシップ（目標17）で促進する必要があります。

あおぞら財団の姿勢



（株）インターリスク総研より資料提供
SDGs“wedding cake”illustration presented by Johan Rockstrom and Pavan Sukhdev

マイノリティの声が届く社会へ

行政と企業と住民のパートナーシップを築くことが、あおぞら財団の活動には求められています。このパートナーシップは、SDGsでは17番目の目標として掲げられており、肝の部分になります。

立場の違う人が話し合う場を創ることが大切（公害資料館ネットワーク会議）

公害が発生した1960～70年代は市民の声を行政や企業に届けることが難しい社会でした。公害が発生したことも一つの契機となって、社会の仕組みがどんどん変わって市民参加が可能になりましたが、まだまだ社会は公害患者のようなマイノリティの意見が届かない場面がたくさんあります。戦後の経済発展が推進される世の中では、公害患者の救済は後回しにされてきたのです。

あおぞら財団は、そのような人たちの声が届くような社会を作りたいと願っています。このことはSDGsが掲げる「誰一人取り残さない」ことにつながっています。

持続可能なまちづくり

あおぞら財団のまちづくりでは、福祉と環境の視点を掲げ社会的弱者に優しい交通に着目しています。また防災についても、要援護者支援として、逃げ遅れる可能性がある人の支援を目指しています。福祉の分野でも「呼吸リハビリテーション」の普及を手掛けているのは、公害患者をはじめ、呼吸器疾患に苦しむ人たちが、少しでもよい生活を送れる社会であってほしいという願いからです。

国際交流事業では、「パートナーシップの姿勢」を学んでもらうことが重要になっています。中国のNPOとの交流では、「あおぞら財団が企業や行政の主張をまず受けとめている姿勢に感銘を受けて、中国でも円卓会議を開催することになった」といううれしい報告がありました。

公害を通じてSDGsを学ぶ

あおぞら財団の5階には「西淀川・公害と環境資料館」があり、年間400人程度の来館者があります。研修に来られる皆さんには、SDGs達成のために公害の経験を学ぶことを提案しています。公害をめぐる事実だけでなく、解決のための葛藤について立場別に学べるようにしています。対立する関係から解決に向けてどう対話し協働するか、現地を見ながら、参加型の学習を取り入れながら問いかけています。SDGs達成のために、市民側、そして公害の経験を伝えるという立ち位置からできるアクションを試行錯誤していこうと考えています。

毎年、中国の環境NGOが西淀川の経験を学びに来ています

西淀川・公害と環境資料館の研修パンフレットにSDGsを学ぶ姿勢を示しています

特集

SDGsはじめました！

SDGsとパートナーシップ

佐藤 真久（東京都市大学環境学部 教授）

佐藤真久先生は国際的な環境・教育協力の他、協働ガバナンス、社会的学習、中間支援機能などの地域マネジメント、組織論、学習・教育論の連関に関する研究を進めておられます。あおぞら財団が環境省事業の協働取組として公害資料館ネットワークの構築を行った際のアドバイザリー委員でした。ここでは、SDGsとパートナーシップの関係について論じていただきます。

「パートナーシップ」と一言でいっても、「パートナーシップ」という用語は古くて、新しい言葉である。SDG第17目標（パートナーシップで目標を達成しよう）の17項では、「さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する」と指摘されており、利害の異なるステークホルダーとともに取り組むプロセス（マルチステークホルダー・プロセス）と、力を持ち寄るパートナーシップ（協働）の重要性が指摘されている。「協働」は、一般的に問題解決のための〝手段〟（協働によって諸問題を解決するという捉え方）として捉えられがちであるが、多様な主体が「協働」をすることは、〝権利〟（協働は、社会参加や主体形成を可能にする人権であるという捉え方）であるとも捉えられる。さらには、〝目的〟（協働すること自体が、文化形成、協働ガバナンスの構築、社会的学習の深化、レジリエンス社会の構築に資するという捉え方）としての捉え方もある。このように、「パートナーシップ」には、多義性があることを理解しておくことが必要であろう。

SDGsでは、通底するメッセージとして、〝誰ひとり取り残さない（no one left behind）〟への対応を強く求めている。いわば、人権と参加原理に基づく「社会包容的（inclusive）な世界観」であるといえよう。ここで、〝inclusive〟を「包容的」とするのは、政策論的・社会学的用語である「包摂的」や、障碍者など各マイノリティに限定された「インクルーシブ」と区別するためであり、特に「社会的包摂」（social inclusion）政策がしばしば新たな排除を生み出したり固定化したりしている現実を踏まえ、まちづくり、地域づくりにおいてすべての人間を受容する重要性を強調するためである。〝誰ひとり取り残さない〟という言葉には、貧困の「削減」ではなく「根絶」が目標とされていることや、「貧困」の問題ではなく「貧富の格差」の問題に対応するためにも、より構造的な対応策が求められているといえる。

SDGsで強調されている〝誰ひとり取り残さない〟を軸に「SDGsとパートナーシップ」を考えると、〝達成手段〟として捉えているSDG第17目標というよりも、SDG第11目標（住み続けられるまちづくりを）、SDG第16目標（平和と公正をすべての人に）としての捉え方の重要性を読み取ることができる。今後、パートナーシップの多義性を踏まえたうえで、「なぜ、パートナーシップを行うのか？」という問いを、関係者と共有することから「協働」を深めていくことが重要であろう。

北海道で進めるSDGs

―さっぽろ自由学校「遊」の取り組みから

小泉 雅弘（NPO法人さっぽろ自由学校「遊」）

SDGsを掲げた取り組みは、国連採択から3年が経ったいま各地で様々な形で行われています。ここでは北海道において、さっぽろ自由学校「遊」（以下、「遊」）が活動の一環として取り組まれてきた市民によるSDGsに関わる取り組みの一部をご紹介いただきます*1。

2030年の北海道のあるべき姿を考えるCSO（市民社会組織）ミーティングより（2018年10月6日）

SDGs北海道の地域目標づくりワークショップ

「遊」では、2016年1月から12月にかけて、ほぼ月1回のペースで「SDGs北海道の地域目標づくり」と題したワークショップを開催した。SDGs17目標をベースに北海道の地域性も加味した9つのテーマを設定、各回テーマに関連する活動をしている方を1～2名招き、その報告を参考にしながら参加者各自が自分の考える2030年目標を出し合うというスタイルで行った。市民一人ひとりが元々持っている「貧困をなくしたい」「環境を守りたい」といった素直な思いを出し合うことが、SDGsを自分事にし、地域に結びつける出発点と考えたからである。その成果は小冊子にまとめ、各関係機関に配布した。市民がSDGsに基づいて地域の目標やビジョンを考える試みは広く共感を呼んだ。

小冊子『SDGs北海道の地域目標をつくろう 2 SDGs×先住民族』表紙

SDGs×先住民族

北海道で「持続可能な開発」というテーマを取り上げる上で、先住民族であるアイヌ民族の視点と参画は欠かすことができない。なぜなら、これまでの持続不可能な「開発」を進めてきた母体は、近代国家とそれに支えられて巨大化した企業であるが、これらの圧倒的な「力」によって自らの持続的な生活や生存を脅かされてきた人びとこそが先住民族だからである。

そこで第二弾のテーマを「SDGs×先住民族」とし、17目標すべてに沿ってアイヌ民族の歴史や現状、課題や目標を紹介した。貧困や不平等、健康、働きがい、まちづくり、海や陸の保全や気候変動などSDGsの目標は一見バラバラなものに感じられるが、先住民族の辿ってきた歴史や彼／彼女らが周辺化されてきた社会構造からみたとき、それらの目標同士が密接に結びついていることが実感できるはずである。

北海道SDGs推進ビジョンに向けた提案

2018年になると北海道庁がSDGs推進本部を設置し、北海道SDGs推進ビジョンの策定を突如打ち出した*2。道はこのビジョンを「道内の多様なステークホルダー（主体）が共有する基本的な指針」と位置付けていたが、にもかかわらず多様なステークホルダーが意見表明するプロセスは想定されていなかった。

そこで私はビジョン策定に向けた意見交換を行う懇談会のメンバーに、国連のメジャーグループ*3に倣ったグループ別のビジョン提案ミーティングの開催を呼びかけた。その結果、「女性」「アイヌ民族」「若者」「CSO（市民社会組織）」という4つのグループと、「経済」という1つのテーマで2030年の北海道のあるべき姿を考えるミーティングが実現した。

残念なことに、この懇談会における道（行政）の姿勢は対話的なものではなく、ミーティングで出された多様な意見も、懇談会メンバーの考え方も、ビジョン案にはほとんど反映されていない。しかし、「誰ひとり取り残さない」という理念を掲げるSDGsを進めていく上で、実際に課題に直面している人びとの視点やその参画は、何にも増して優先されなければならないと考えており、今後の取り組みにこうしたミーティングの成果を結び付けていきたい。

*1 さっぽろ自由学校「遊」については、http://sapporoyu.org/ を参照。また、文中の2つの小冊子『SDGs北海道の地域目標をつくろう』（A5判48ページ、2017年3月発行）、『SDGs北海道の地域目標をつくろう2　SDGs×先住民族』（A5判60ページ、2018年3月発行）については、同ウェブサイトの「発行物紹介」のページよりPDF版をダウンロード可能。

*2 北海道のSDGs推進については、http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sks/SDGs/top.htm を参照。懇談会の経過（議事録、構成員の提出資料を含む）については、http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sks/SDGs/kondankai.htm を参照。

*3 1992年のリオ地球サミットで採択された「アジェンダ21」において「持続可能な開発」における主要なステークホルダーとして言及されている「女性」「子ども・若者」「先住民族」「NGO」「地方自治体」「労働者・労働組合」「産業界」「科学・技術コミュニテイ」「農民」という9つのグループのこと。

第6回公害資料館連携フォーラム in 東京の議論から

権利ベースアプローチと公害

2018年12月14日~16日に開催した公害資料館連携フォーラムでは、SDGsをテーマに掲げて議論を行いました。
ここでは基調講演と、企業分科会の様子をご紹介します。

市民の力でSDGsを活用するハードコア編

基調講演の今田克司さんは、2008年から 13年にかけて国際NGOのCIVICUS事務局次長・事務局長代行を務めておられました。ミレニアム開発目標（MDGs）以降の開発と環境に関しての国際的議論の過程に、市民社会からの声を反映させるためのコーディネートをされていた経験からご講演いただきました。会場には、東京や川崎の大気汚染公害患者さんたちもおられ、今田さんは「公害被害という共通体験を持っているみなさんだからこそ『権利ベースのアプローチの進化』がSDGsの底流にあることを理解してほしい」との問いかけがありました。

今田克司さん

権利ベースアプローチ

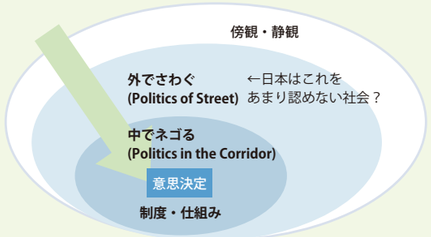
SDGsの前提として、このままでは世界は持続不可能であるという問題があります。また、SDGs策定過程では「権利ベースのアプローチをめぐるせめぎ合い」がありました。権利ベースのアプローチとは、ものごとを構造として、システムとして捉える「考え方の進化」と、それを支える人権中心主義のことを指します。例えば、食べ物が十分にない状況にある人がいるとします。支援の方法として、まず考えられるのは「魚をあげよう」というチャリティの発想です。施しといってもいいかもしれません。第2段階は「魚釣りの仕方を教えよう」という伝統的な開発の考え方です。第3段階が権利ベースのアプローチの考え方で「そもそも子どもや家族が魚にありつけない社会状況があるのではないか？ そこを解決しないと」と考えます。つまり、食べ物が充分にないという人権を侵害された状況を解決しなければならないという発想です。

SDGsから見え隠れするもの

SDGsは経済、社会、環境の統合を目指しており、その基調には人権の考えがあります。市民側が権利ベースのアプローチを求めていましたが、国家間交渉で人権思想はうすめられてしまいました。また、毎年の自発的国別レビューはすでに成果をアピールする「お国自慢」の様相を呈しています。

みんなで実践していく姿勢

社会運動で大切なことは、仕組みに働きかけることです。働きかけには図にあるように3段階あり「中でネゴる（交渉する）」「外でさわぐ」「傍観・静観」です。日本では「外でさわぐ」ことが認められにくい社会にあります。SDGsの権利ベースアプローチを駆使してシステムの変更を迫ることがこれから求められています。そのために必要なことは、お互いの活動からインスパイアし、インスパイアされる関係を作ることです。ワクワク感が仲間づくりの基本です。



図：社会運動に必要なこと＝仕組みに働きかけること
今田克司さんの資料より

基調講演の様子

企業分科会の様子

SDGsの視点でイタイイタイ病の経験から学ぶ（企業分科会）

企業分科会では、イタイイタイ病の全面解決に至るまでの経過について、被害者団体代表と原因企業の元社長から報告がありました。その内容を受けて国際人権問題を専門とする寺中誠さんからいただいたコメントの概要をご紹介します。

寺中誠さん

生じます。歪みの一つが公害です。開発に伴って内外で差別や偏見やヘイト、分断が生じてきます。そうした紛争の解決に際して、「紛争はわれわれの共有財産」（Conflict as our Property）とする考え方があります。紛争を解決する権利は「われわれ」にありますが、その解決を警察や行政に委ねてしまうと、権利も譲渡してしまうことになります。一番重要なのは「われわれ」を作り上げることです。共有財産だから、誰か一人が代表して解決するのでなく、みんなで取り組むことが重要です。

イタイイタイ病の場合

イタイイタイ病の場合は法律の専門家がたくさん入っていたことが重要で、ここで「権利―義務関係」による社会問題の整理が行われています。権利に対して義務が発生しますが、義務はどこに生じているのか、国なのか県なのか、企業なのかをはっきりさせなければなりません。権利が侵害されているならば、誰が義務として権利を実現しなければならないのかを整理する必要があるということです。それが権利（人権）を基盤に置いた援助（権利ベースアプローチ）です。

紛争はわれわれの共有財産

持続的発展論には、内発的発展か外部からの力による発展の二つがあります。しかし外部からの力による場合は、必ず歪みがあるのは難しい状況にあります。イタイイタイ病の事例は数少ない機会をうまくとらえていて、徹底的な情報共有がなされていたこと、窓口を一本化していることがそのうまくいった要因で、戦略的にやられたのだと思います。

権利保持者（Rights Holders）と義務履行者（Duty Bearer）の特定において、イタイイタイ病の場合はとてもうまくやったといえるでしょう。被害者である権利保持者には支援ではなく、権利保持者の"empowerment"が課題であり、専門性の補助等も含まれています。そして、権利保持者の分断（排除や過剰な同化主義）を禁止する動きも被害者団体が腐心して苦労されている。

「私たち抜きで私たちのことを決めるな！」

SDGsでは意思決定の参加権が人権として認められているのですが、本来のステークホルダーエンゲージメントが間違って受け止められていて、実際は被害を受けている人が意思決定に関わるのは難しい状況にあります。

"Nothing about US without US!"「私たち抜きで私たちのことを決めるな！」それが権利なのです。イタイイタイ病の解決のプロセスは、長い時間はかかりましたが、実にこの問題解決のプロセスをやりきったといえます。問題はまだ解決していませんが、まだ我々の共有財産は失われていません。これはデメリットではなくメリットであると意識を転換することが重要です。

今田さんは「公害患者の皆さんは公害の解決のために、行政や企業と交渉して制度や仕組みを変えてきた人たち」と捉えて講演を組み立てられました。寺中さんもイタイイタイ病の被害者が「意思決定の参加権」を行使した人たちと評価されました。権利ベースアプローチの先例として公害反対運動があることが明らかにされ、公害反対運動を新しく受け止めることになったフォーラムでした。（林）

自転車に乗ってSDGs！

今回の特集は「SDGs」ということで、いろいろと調べる中で、そう言えば、デンマーク式子ども自転車教室の師匠であるロッテ・ベック※1さんの話に出てきたな、と思い出しました。
あおぞら財団でも自転車を活かしたまちづくりに取り組んでいますが、ここでは自転車がSDGsに貢献する可能性を紹介します。

https://urbandevelopmentcph.kk.dk/artikel/cph-2025-climate-plan

デンマークと言えば、、、

デンマークは、SDGs達成度が世界第2位だそうです（ちなみに、日本は11位）※2。
デンマークと言えば、国民のほぼ半数が通勤や通学に自転車を使用しているほどの自転車先進国です。その首都コペンハーゲンでは、2025年までにカーボンニュートラルを目指して、様々なモビリティ（移動）に関する目標を上げています。
計画書にはこんな風に書かれています。「コペンハーゲンを散策するのは簡単で、健康で、そして効率的であるべきで、そして街のさまざまな部分を結ぶべきです。しかし、課題がないわけではなく、輸送からのCO2排出量の大部分は道路交通から来ています。CO2排出量削減のためには、道路輸送の最適化と再構築が必要です。2025年には、全交通トリップの少なくとも75%を徒歩、自転車、または公共交通機関で行わなければならないという目標を設定しました。」※3
これらを実現するためには、自転車用の交通標識や自転車道の整備、自転車教育など様々な施策がとられています。

自転車がSDGsに貢献できること

そして、ヨーロッパ自転車連盟が出している「Cycling Delivers on the Global Goals※4」では、自転車は17の目標のうち11の達成に貢献可能としています。例えば、「目標3：すべての人に健康と福祉を」については「大気汚染の排出量の減少、温室効果ガスの排出量の減少、身体活動レベルの増加により、健康に有益な影響をもたらします。」。「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」では、「自転車は、女性や女児が水、学校、市場、そして、徒歩や他の交通手段では通えない仕事へのアクセスを可能にします」。そして「目標13：気候変動に具体的な対策を」については「環境的には、自転車は交通と社会の脱炭素化の象徴です。自転車に乗ること自体が気候変動への即効性のある対策になりえます」。ここまで読むと、自転車スゴイ！って思いますね。

もっと自転車を使おう！

こうしてみると、SDGsの目標達成には移動（mobility）に関する改革が欠かせないと感じます。中でも身近な乗り物である自転車。特に日本はその利用率が世界的にみても高く、もっと活かしていけないかと思うわけです。藤

コペンハーゲンの2025年までのモビリティ目標

- コペンハーゲンにおける全ての交通トリップの75%を徒歩、自転車、公共交通で
- 通勤・通学目的の全トリップの50%を自転車で
- 2009年と比較して公共交通の利用20%増
- 公共交通をカーボンニュートラルに
- 全ての小型車の20〜30%を新燃料で
- 大型車の30〜40%を新燃料で

自転車がSDGsに貢献できる11の目標

＊1：ロッテ・ベックさん／建築家、都市プランナー。デンマーク自転車大使館とデンマーク自転車連盟の国際委員会メンバー。コペンハーゲン市交通局において、世界最高の自転車の街を目指して、自転車・文化を創造するプロジェクト・マネジャーとして12年間勤務。子どものためのサイクリング教育に関するデンマークの経験を世界中に伝えている。

＊2：SDG Index and Dashboards Report 2017

＊3：CPH2025 CLIMATE PLAN（CITY OF COPENHAGEN THE TECHNICAL AND ENVIRONMENTAL ADMINISTRATION）。
https://urbandevelopmentcph.kk.dk/artikel/cph-2025-climate-plan
写真は同レポートより転載。

＊4：「Cycling delivers on the Global Goals」
European Cyclists' Federation
https://ecf.com/groups/cycling-delivers-global-goals

菓子工房 シュクルリ

2018年4月にオープンしたばかりですが、全国のチョコミントファンには広く知られているお店です。チョコミントオペラやメレンゲなど、チョコミントの美味しさが引き出されたスイーツが目白押しです。西淀川のお客様の特徴は、チョコレート好きの方が多いとのこと。年配のおじさんが1人で来られてチョコレートケーキを買っていかれることも。
商品開発には、チョコミント好きの奥様が大きく関わっているそうです。愛を感じるチョコミントです！

（イラスト：とりやまひろこ）

所 歌島2-1-6ホンダハイム1F
休 火
営 11:00-19:00
☎ 06-4862-62030
HP http://sucreries.net/
https://www.instagram.com/sucreries_info/

オカノ百貨 塚本店

2018年3月にオープン。「子育て世代のあなたへ。暮らしの中にほんの少しの感動と小さなときめきを。」をコンセプトに、リーズナブルでセンスの良い心ときめく雑貨がお店の中にところ狭しと並びます。西淀川には雑貨店が根付かないという声もあったそうですが、いざオープンしてみると、「こういう雑貨店がほしかった」というお客さんも多く、生活必需品よりも生活にうるおいを与える雑貨が人気に！アロマやフレグランスなどの香りを楽しめるアイテムがよく売れているそうです。

burari yururi
第25回 ぶらりとゆるりと西淀川めぐり
西淀川のニューフェイス
新しいお店ができると、街が明るくなります。
今回は、西淀川に新しくできたケーキ屋さんと雑貨屋さんを紹介します。谷

所 柏里3-3-3
休 不定休
営 10:00-21:00
☎ 06-6829-7863
HP https://okanohyakka.com/
https://www.instagram.com/okano.hyakka/

みずしまだより

みずしま財団資料保存スタッフ/森 久美

みずしま財団
公益財団法人 水島地域環境再生財団
岡山県倉敷市にある環境再生・まちづくり活動を行っている団体。倉敷大気汚染公害裁判の和解金の一部を基金として設立されました。あおぞら財団とは姉妹のような関係の団体です。「みずしまの今」を伝えます！

環境保健の取り組み

みずしま財団は、あおぞら財団と同様に、大気汚染公害裁判の和解条項、解決金の一部を原告らの環境保健、地域の生活環境改善などの実現に使用できるものとする、を元に設立されました。あおぞら財団が設立された4年後の2000年に岡山県より許可を受けました。
本年度の当財団の環境保健事業では、（独）環境再生保全機構「地域におけるCOPD対策推進事業（NPO法人等との協働）」として、倉敷市内を対象に、肺年齢測定の実施、患者さん向け呼吸リハビリ教室や医療従事者向け講習会の開催等、COPDと呼吸リハビリの普及啓発を行っています。在宅酸素・COPDの患者さんのための呼吸リハビリ教室では、負荷が少ないため呼吸器疾患の患者さんが取り組みやすい運動として、2016年度よりフライングディスク体験を取り入れています。フライングディスクは軽い円盤を投げるスポーツで、的にめがけて投げて入ると歓声が上がります。呼吸リハビリテーションのことを楽しく学び、交流する機会として好評です。「動くとしんどい」と動かないでいると筋力が弱り、さらに悪くなるという悪循環があります。楽しく身体を動かすことを取り入れることがこの悪循環を断ち切ることにもつながります。

的にめがけて円盤を投げるフライングディスク

みてアート

「にしよどがアートのまち」になった5日間 御幣島芸術祭2018

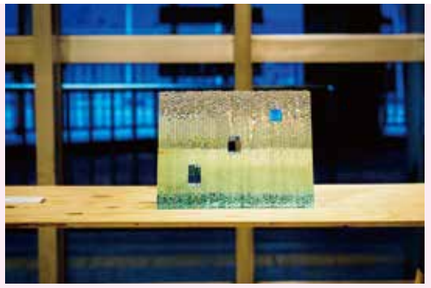
西淀川区の御幣島(みてじま)エリアで2013年からはじまった御幣島芸術祭（みてアート）。昨年で6回目となりました。メイン会場のもと歌島橋バスターミナルでは、11月1日～5日まで「バスターミナル跡地をミュージアムに」というコンセプトで65組のアーティストが参加して芸術祭を開催。3日と4日の2日間は、区内の店舗や施設、事務所、銀行など25ヶ所がアート展示やワークショップ、スタンプラリーの拠点となり、のべ約3,500人が参加しました。あおぞら財団は、今回はじめて拠点の一つとして、公害や環境、災害に関する展示とイベントを実施し、約100人が来場しました。

御幣島 ART FESTIVAL MITEJIMA 芸術祭

新しい挑戦：バスターミナル跡地をミュージアムに

みてアートは、地域のイベントとして少しずつ、みなさんに知ってもらえるようになってきましたが、より一層、アート面に力を入れようと、昨年は総合ディレクターに巨大絵本作家の山田龍太さんを迎えました。使われなくなったバスターミナルの跡地をどうすればミュージアムにできるのか。主催者にとっても挑戦でした。

造形、写真、映像、漫画、ゲームなど、数々の作品で、バスターミナル跡地が、準備段階からどんどん変わっていきました。会期中は壁面を使ったライブペイント、ドラム缶ワークショップ、音楽など、生のアートも登場しました。


光によって変化する山口アキオさんのガラス作品

5日間という会期、有料化、午後9時まで開館、というはじめてづくしの運営でした。そんななか、東京や千葉、名古屋など、全国からおとずれる来場者によって、手ごたえを感じていきました。アーティストや来場者との会話がさらに作品とのかかわりを深めてくれる。そういうミュージアムでした。

メイン会場だけではなく、区内に広がる各拠点で、アートやイベントを介して、さまざまなコミュニケーションが生まれていたと思います。

初企画！壁面ライブペインティング・バトル「西淀ブッシュウィック」の優勝者の作品の前で記念撮影

ローレフォト作家・寅貝真知子さんの作品群。まるで森の中にいるみたい

多くの支え

みてアートは、資金面では、協賛企業からのサポート、助成金などでまかなっています。準備や運営、片付けでは、インターンの大学生やボランティアスタッフが活躍してくれました。32ページにおよぶ公式ガイドブックをめくると、どのページを見ても、それにかかわった人たちの顔やしぐさが浮かんできて、本当にたくさんの方々の支えによって成り立っていることを実感します。ありがとうございました。鎗

ドラム缶絵本の背景づくりワークショップ／平成30年度きらり☆青少年夢応援事業（主催：西淀川区役所）

●主催：みてアート実行委員会
●共催：西淀川区地域振興会
●後援：西淀川区役所
●特別協賛：社会福祉法人あゆみ福祉会・あおぞら苑、HOUSeNJOY おおばこうむてん、一般財団法人淀川勤労者厚生協会、ウェルフェア西淀川・姫島、一般社団法人大阪ファルマプラン、セブン-イレブン西淀川税務署前店、国際ライフパートナー株式会社、chou chou シュシュ、株式会社近畿サービス、株式会社Azars、株式会社キャリアアップ、株式会社CyberStyle、NPO法人西青会、株式会社PTS、毎日新聞西淀川販売所、株式会社レーザーテック、株式会社ワカタ製作所
●協賛：江崎グリコ株式会社、太平段ボール工業株式会社、スモカ歯磨株式会社、野村興産株式会社
●協力：アトリエヤマダ、アトリエNUTS、大阪市高速電気軌道株式会社、（株）コルクBooks、（株）ダンボる、西淀川区商店振興協議会
●事務局：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）

大阪市助成事業、西淀川区社会福祉協議会共同募金配分金助成事業
http://miteart.blogspot.com/

忙中一筆

「西淀川に、美術館を作りたい」たくさんのアートに日常的に触れることのできるワクワクする街に

宇宙ドミノ／磁石が付いたドミノ。鉄系の素材であればどこにでも付けることができ、空間上でドミノ遊びができる作品。

私は、大阪の西九条に生まれ西宮で育ちました。現在は巨大絵本作家／アーティストとして大阪・東京を中心に、絵の具やダンボール素材を活用した巨大絵本づくり、ワクワクするアート空間作りを全国各地の商業施設・百貨店・地域イベントで行なっています。昨年11月末には世界的人気キャラクター・ムーミンともコラボして北欧をテーマとした巨大絵本づくり・アートイベントを行いました。

西淀川区との出会い

私と西淀川区との出会いは、2017年の「みてアート」に参加させて頂いたことが、きっかけです。もと歌島橋バスターミナルを有効にアート活用したいとのお話に興味を持ち、そこからご縁が繋がりました。そして、2018年の御幣島芸術祭では総合プロデュースを担当させていただくことになり、一気に西淀川が身近になりました。

私が、この街に特に興味を持った点は、西淀川には多くの「もの作り企業」があることです。私の実家も大阪で鉄工所を営んでいますので、とても親近感を持ちました。

これからの理想として、アーティストの持つ発想力・アイディアや発信力と、西淀川区の企業が持つ技術力を組み合わせ、大阪発の新しいモノを生み出していきたいとも考えています。そのために、御幣島芸術祭を継続して開催し、この街にアーティストが集まる環境、美術館やアートギャラリーを作り、子供たちが日常的に芸術を楽しむことのできる街にしていくことが、将来的に求められてくると考えています。

山田　龍太（やまだ　りゅうた）

プロフィール：1988年、大阪生まれ西宮育ち。アトリエヤマダ代表。近畿大学理工学部機械工学科を卒業。「ワクワクをカタチに」をテーマとして絵の具やダンボール素材を活用した巨大絵本づくりや、参加型のダンボールアートワークショップを全国各地で実施。大阪/西淀川区の中学生・高校生と一緒に作る[ドラム缶で絵本を作ろう]イベント等、子どもたちが芸術を楽しみアーティストを目指せる環境づくりにも力を入れている。

この街に美術館を／ステップ1：美術・図工室を立ち上げます

この街に美術館／ギャラリーを作るためのステップとして、まず現代美術の原点、「図画・工作」を気軽に体験することのできる美術・図工室を作りたいと思っています。小学校の図工室のように、いろいろな素材や道具があり作品を作ることのできる場所です。御幣島芸術祭に参加したアーティストと一緒に、絵や造形を作ることができる空間です。特に、力を入れたいことは、みんなで大きな作品を作ること。大きな作品を作るために必要なのは、イメージ力、準備力、コミュニケーション力、いろいろな力が必要になってきます。そして、この図工室で学んだ子どもたちが将来アーティストや技術者となって御幣島芸術祭や世界、地域の企業で活躍するようになれば、もっともっと面白くなると思います。

子どもたちとダンボールアートのワークショップ

あおぞら広場

ありがとうございます

（2018年10月～12月 敬称略・順不同）

●お助けボランティア

左成 志朗　吉田 秀樹
南 聡一郎　渡辺 哲敬
須藤 三雲　松村 優也
須藤 路久　大江 悠希
吉岡 秀紀　塚田 聡
岡崎 久女　土屋 航太郎
山下 晴美

※7月以降のボランティアを掲載しています

●寄附・寄贈者

飛松 康雄　白川 政昭　松村 暢彦　塩貝 隆夫　蔵本 幸治　福島 達夫
新井 真　高橋 勝利　三宅 直美　宮本 憲一　村松 昭夫　藤岡 貞彦
池上 甲一　中島 晃　森脇 祥子　左成 志朗　大槻 賢孝　古賀 崇
伊藤 孝　中田 和子　山本 容子　山崎 圭一　中迎 佳世　石井 琢也
伊藤 真美子　中村 昌史　吉村 良一　柴崎 幸子　直江 義雄　小野塚 春吉
岩元 美保　中山 裕二　脇田 武利　秀平 吉朗　天野 憲一郎　NPO法人ねやがわ市民共同発電所
上田 敏幸　西口 勲　逢坂 隆子　小田 康徳　田邊 匡彦　ヒール・ザ・ワールド「被災地に癒しを届けよう！」
小川 和利　林 修　一柳 久美子　新田 保次　吉田 巌
柏原 誠　藤江 徹　一柳 正義　川崎 美榮子　宮本 由貴
神田 洋二　藤元 百代　遠地 靖志　鎗山 善理子　湯本 浩之

読者の声

末吉　智哉
（大阪経済大学経済学部）

私は、大阪経済大学経済学部4年の末吉智哉と申します。3年の時に参加したインターンシップであおぞら財団に来ました。その後、あおぞら財団でアルバイトをすることになりました。
私がアルバイトをしてきた中で、一番印象に残っているのは、みてアートです。準備から参加させていただきましたが会場の準備は、みてアートが開催される直前までしており、上手くいくのかどうか心配していました。いざ、みてアートが開催されると多くの人が来場されて、一日があっという間に終わりました。
今まで、イベントには、あまり積極的に参加してこなかったので、あおぞら財団に来ていろいろな体験がとても充実しています。アルバイトは、就職するまでですが、最後まで頑張ります。

緑道散歩

サザンカは西淀川区の区花です。大野川緑陰道路にたくさん植樹されていて、きれいなピンクの花が楽しめます。大野川緑陰道路は公害が激しい時期にどぶ川になってしまいましたが、住民と自治体の努力で緑の道になりました。サザンカの花は一輪で華やかというより、重なってワーと咲いているのが華やかで良いと思います。まるで、みんなで力を合わせて公害反対運動をしてきたことを表しているような気がしています。サザンカには二度とあのようなひどい状態にならないように見守っていてほしいと願っています。ちなみのサザンカの花言葉は困難に打ち克つだそうです。（森脇君雄）

「りべら」に広告を掲載しませんか？

年4回（季刊）発行の「りべら」は、あおぞら財団会員様をはじめ、西淀川の公共施設・店舗など、様々なスポットに配布しています。あおぞら財団の活動にご賛同いただける方からの広告の掲載を募集中です。
【りべら広告掲載費】
中面1/9頁：1万円／回、中面1/3頁：3万円／回、中面 全面：9万円／回
※お問合せ先：あおぞら財団まで　TEL06-6475-8885

スタッフツィッター 編集後記

林

「SDGs」という呪文に悩まされて3年くらいでしょうか？特集号は産みの苦しみでしたが、おかげさまでよい勉強となりました。新しい道具を手に入れた気分です。

西淀川菜の花プロジェクト

～エコでつながる西淀川～

【廃油回収量】
総合計46,382ℓ
（2009年7月から2018年12月まで）

2017年度	4,491ℓ
2016年度	4,123ℓ
2015年度	5,823ℓ
2014年度	7,064ℓ
2013年度	7,344ℓ
2012年度	6,472ℓ
2011年度	3,986ℓ
2010年度	2,509ℓ
2009年度	1,517ℓ

現在西淀川区内外約50箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。

エコでつながる
西淀川推進協議会
事務局：
浜田化学株式会社
06-6409-1555

りべら No.151　2019年2月号（季刊1日、年4回発行）

発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
編集人：林　美帆
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885　FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/　webmaster@aozora.or.jp
デザイン：㈱バード・デザインハウス
会員の購読料は会費に含まれています。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団
Facebookページ
「いいね！」を
押してくださいね。

あおぞら財団
The Aozora Foundation
公益財団法人 公害地域再生センター

広告

ディサービスセンター
あおぞら苑

あおぞら御膳

あおぞらの湯

2006年10月1日にデイサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがデイサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

【お問い合わせ】
TEL：06-6475-0111　FAX：06-6475-0114
URL：http://aozoraen.com/
運　営：社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑（事業所番号 2791000090）
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
開所曜日：月曜日～土曜日（祝日は開所）　利用人数：1日18人

◆あおぞら苑Ⅱ（事業所番号 2771002173）
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日：月曜日～土曜日（祝日は開所）　利用人数：1日25人

広告

HamadaKagaku

廃棄物でお困りなら
浜田化学のコンシェルジュに
お任せください

廃食油リサイクル　使い終わった廃食油
食品残渣リサイクル　加工中に発生した食品残渣
廃棄物リサイクル　その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。　浜田化学 コンシェルジュ　検索

浜田化学株式会社　☎06-6411-3457　http://www.hamadakagaku.co.jp

広告

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中

～「いのちの平等」をめざして～

差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

看護師募集中！

・西淀病院
・のざと診療所
・千北診療所
・ファミリークリニックあい
・姫島診療所
・ファミリークリニックなごみ
・介護老人保健施設よどの里
・在宅総合センターらくらく
・社会医学研究所

WHO認証
「地域健康増進支援事業所」認証施設

公益財団法人淀川勤労者厚生協会　TEL 06-6471-0496　URL www.yodokyo.or.jp